

兵庫県立大学看護学部デジタルヘルスケア・センター開設記念 キックオフセミナー報告書

2023年3月28日 デジタルヘルスケア・センター事務局

- 日時:2024年3月15日(金)13:30~17:00
- 場所:兵庫県立大学明石看護キャンパス 講堂



- 事前申し込み申請者(申込期間 2024/12/1~3/15 AM) :179名
 - ・会場参加者希望者:70名
 - ・ウェビナー参加希望者:109名
- 参加者:146名(会場参加者71名、ウェビナー参加者75名) :出席率 81.5%
(参加者所属内訳)

【会場参加者】

- | | |
|-------------|---------------|
| ・兵庫県立大学看護学部 | 教員:35名 /職員:4名 |
| ・兵庫県立大学他学部 | 教員:7名 /職員:4名 |
| ・明石市職員 | 5名 |
| ・播磨町職員 | 5名 |
| ・他大学教員 | 4名 |
| ・その他 | 7名 |

【ウェビナー参加者】

- | | |
|----------------|--------------|
| ・兵庫県立大学看護学部 職員 | 2名 |
| ・兵庫県立大学他学部 | 教員:2名 /職員:5名 |
| ・他大学看護学部 教員 | 17名 |
| ・他大学他学部 教員 | 2名 |
| ・行政関係者 | 13名 |
| ・その他 | 34名 |

■ プログラム

- 開催概要 13:30 開催挨拶 坂下玲子（兵庫県立大学 副学長）
13:35 学長挨拶 高坂誠（兵庫県立大学 学長）
13:40 来賓挨拶 太田勲（兵庫県立大学 前学長）
- =第1部=
13:45 介護・医療分野におけるビックデータの活用とケアの創出
井上 創造（九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授）
14:35 人々の健康行動の変容に迫るアプローチ法とデジタルデバイスの活用
江口 泰正（産業医科大学 産業保健学部 人間情報科学 教育教授）
15:20 まちづくりプロジェクトにおける孤立化予防
和田 真理子（兵庫県立大学 国際商経学部 准教授）
(16:05～16:15 休憩)
- =第2部=
16:15 明石市長挨拶
16:20 播磨町長挨拶
16:25 地域に根差した Well-being を支援するデータヘルスシステムの構築
～地域社会における孤立化予防を目指して～
川崎優子（兵庫県立大学看護学部 教授/デジタルヘルスケア・センター長）
16:40 デジタルヘルスケアの可能性
笹嶋宗彦（兵庫県立大学情報科学研究科）
16:55 閉会挨拶 工藤美子（兵庫県立大学看護学部 学部長）

■ 内容

はじめに兵庫県立大学副学長 坂下玲子先生より開会ご挨拶、兵庫県立大学学長 高坂誠先生より学長ご挨拶、兵庫県立大学前学長 太田勲様より来賓のご挨拶をいただいた。

第 1 部の基調講演では九州工業大学大学院生命体工学研究科の井上創造先生より「介護・医療分野におけるビックデータの活用とケアの創出」、産業医科大学産業保健学部人間情報科学の江口泰正先生より「人々の健康行動の変容に迫るアプローチ法とデジタルデバイスの活用」、兵庫県立大学国際商経学部の和田真理子先生より「まちづくりプロジェクトにおける孤立化予防」について講演いただいた。各先生方よりビックデータの活用で人々の行動の先を予測する研究、デジタルデバイスを活用し人々の行動変容を促すアプローチ法の研究、孤立化を予防するためのまちづくりを現在の活動を交えながらご説明いただいた。

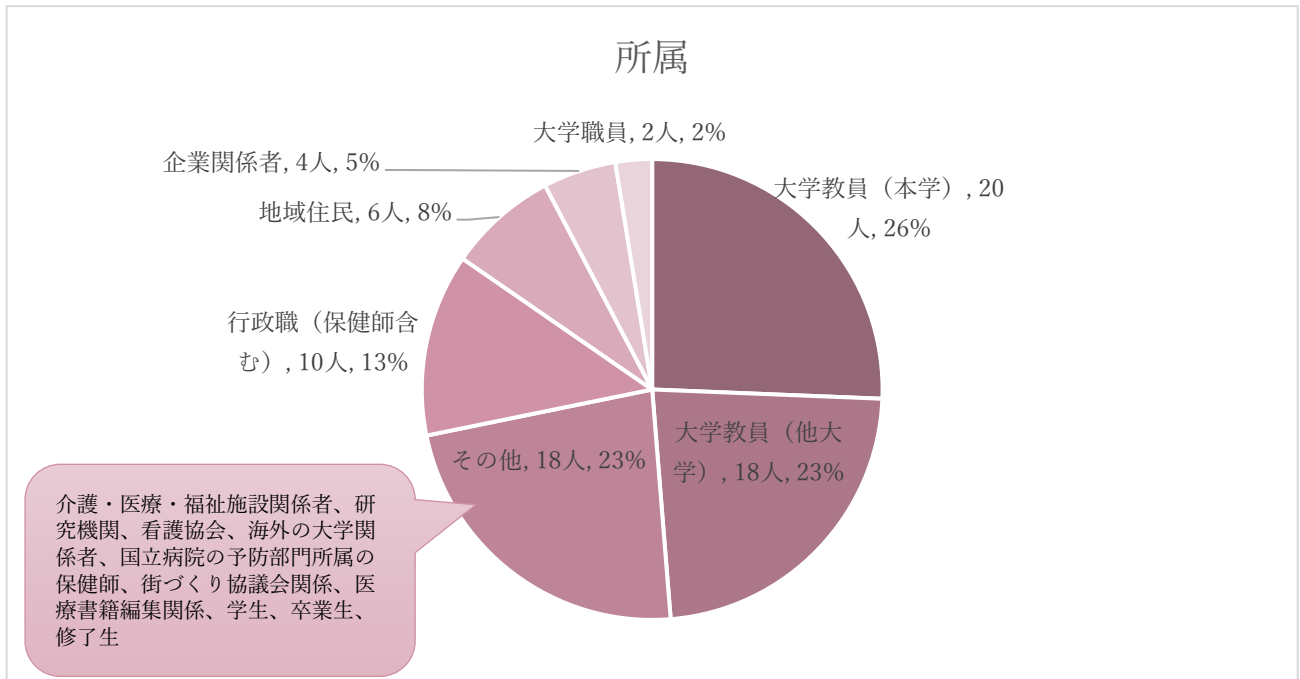
第 2 部でははじめに明石市長 丸谷聡子様、播磨町長 佐伯謙作様よりご挨拶をいただき、デジタルヘルスケア・センター長 川崎優子先生よりセンターの概要、現在進行中の各プロジェクトの説明、地域に根差した Well-being を支援するデータヘルスシステムの構築について、兵庫県立大学情報科学研究科 笹嶋宗彦先生よりデジタルヘルスケアの可能性について説明があった。

参加者からは、ビックデータの今後の見通しや人材育成について質疑応答があり、地域に根差した Well-being の支援方法を考える機会となった。



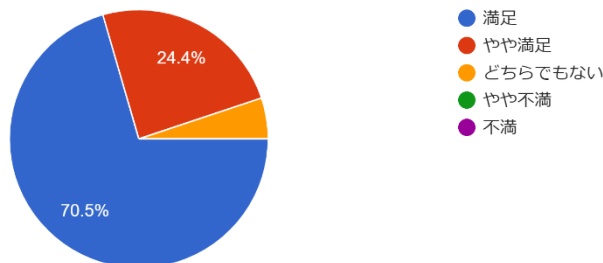
■ アンケート(回収数 78(回収率 42.8%)

現在のご所属をお聞かせください



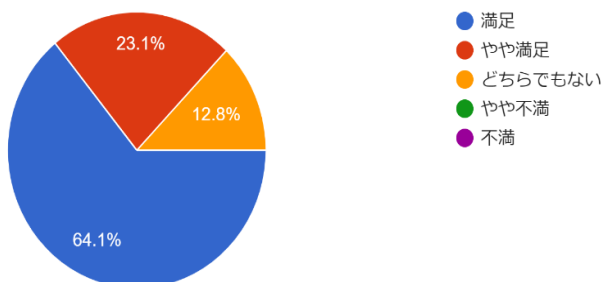
Q1)井上創造先生のご講演について、どの程度満足いただけましたでしょうか。

78件の回答



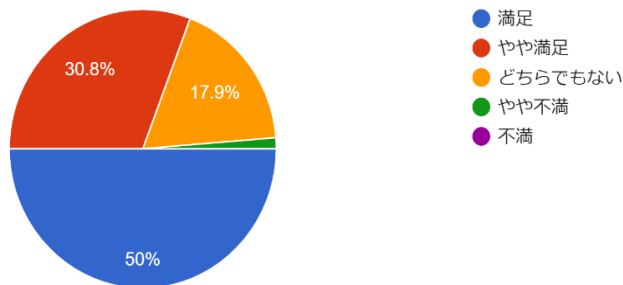
Q2)江口泰正先生のご講演について、どの程度満足いただけましたでしょうか。

78件の回答



Q3)和田真理子先生のご講演について、どの程度満足いただけましたでしょうか。

78 件の回答



Q4)本日の講演を振り返り、今後参考・実践したいことがあれば、お聞かせください。

<コミュニティ>

- 世代を超えたコミュニティづくり(インフォーマルコミュニティ)に興味を持っておりますが、研究費が獲得できずに現時点でもどかしい思いを持っております。そういった点より、江口先生の世代を超えたコミュニティづくりに大変興味を持っております。
- 独居の高齢者が増加していますが、地域コミュニティとのかかわりを改善したい。
- 地域の方とのつながりを持つために、地域のコミュニティへの参加してみようと思います
- まちなかに出ていきたいと思います。

<データ活用>

- 看護、福祉は可視化しにくいものですが、ビッグデータ活用でケア予報をする画期的なお話しでした。講義を受ける前にコンビニのレジ前で足跡のマークに合わせたばかり。感情で行動してしまう自分にびっくり。ヘルスリテラシーをもって行動したいです。
- 感想ですが、介護職のようにサービスがパックになっている場合には、井上先生のデータヘルス活用は有効だと思いますが、アセスメントを生業とする看護師には予測をAIに任せるとなかなかフィットしないと感じました。あと、倫理的な部分で恐怖を感じました。
- データをどう活かし、どう住民に還元するかという点で、ナッジについてもっと深く学んでみたいと思いました。地域のグループ活動に新しい人が入りにくいという点で、第一層の居場所づくりについて考えたいと思いました。
- 身近な課題にデータを活用していくことができるのではないかと思った。
- データや情報を快くご提供していただけるような信頼関係の構築
- ナッジに関する知識は今後の研究に活かせそうと思いました。
- ICT活用について、さらに勉強したくなりました
- ソーシャルキャピタルの重要性

<仕組みづくり>

- FonLog を使用してみたいと思った。以前から私が努める施設でも介護記録を活用した介護予測の手

法について検討をしている。今回井上先生のお話を聴講し、新しい考え方に触れることができ良かったと思う。

- 見える化により、住民や企業と認識の共有を進める
- 人とのつながりを生み出す仕組みづくり
- 取り組みに「面白がらせる」を取り入れる
- 心理的効果による UI の実装
- 周辺自治体の課題の抽出
- DX 活用

<その他>

- 明舞団地における活動の報告から、今後、少しでも地域に貢献できる活動ができないか、考えたいと思います。
- 業務の都合により視聴出来なかった発表についてどこかで視聴の機会が得られると有り難いです。
- 社会的処方に興味を持っているので、とても有意義な時間でした。
- 小生は退社（63歳）後のメタボ解消の為に Walking で世界一周（4万 Km）を日課にしていますが、65歳頃ゴルフで腰痛を患いましたが、松葉杖を使用したら痛みも和らぐ事を発見（腰・背骨をささえている筋肉の刺激と血流が良くなる為？）して Walking を続け、後2～3年後に4万 Km を達成するメドがつかしました
- 毎年やって下さい。

Q5)地域の健康課題として、課題と感じられていることがあれば、お聞かせください。

<仕組み強化>

- 自助、共助の強化
- 地域における連携感はやはり弱いように感じる。地域全体で情報やデータを共有でき、活用していきける社会にしていきたい。
- 関係機関も連携しているが、つながっているようでつながっていないこと。
- 企業と連携した働く世代への働きかけ、無関心層への働きかけ方
- 在宅看取り

<教育>

- 行政にある沢山データを、活用する為の人材が不足している。効果的に活用できていない。苦手な者がデータを活用するには時間がかかりすぎる。
- 働き盛りや子育て世代が健康づくりや地域づくりに時間を割いたり関心を持ちにくいこと
- 現場職員の IT リテラシーの低さ
- 人材。

<地域の課題>

- 田舎で過ごす方は、ヘルスケアリテラシーが低いのではないかと偏見を持っていたが、暮らす環境が

どうなのかをみる視点が医療者には必要だと思う

- 心臓病で亡くなる方が全国レベルでも高い。背景には糖尿病があるように考えている。
- 地域独特の生活習慣による生活習慣病の改善

<健康・医療>

- コンビニやファーストフード店が多すぎる。病院や学校の回りは身体に優しい食べ物のお店があると思います。バスの廃止路線が多くなり高齢者の生活の足が減少。孤立しやすくフレイルも起こしやすい。
- 子どもの頃からのメンタルの問題が成人となってもさまざまな問題を引き起こし働くこともできなくなっている（引きこもり・犯罪・自殺・・）。
- 難聴と認知症の鑑別は重要だと思う。ICT 活用には、聴覚と視覚は重要なポイントになると思う。
- 健康寿命延伸のために予防にさらに力を入れていくことが重要であると感じています。
- がん検診受診率の低さや、正確な受診率を把握する難しさ
- 医療相談できるところが欲しい

<高齢化>

- 高齢化の進展が肌で感じられます。若者が転出してしまい、高齢者が高齢者をぎりぎりで支えている地域もあるように思います。そういった地域活動を崩壊させず、支える仕組み、行政の負担増につながる共助につながる仕組みが必要だと思います。
- 高齢化でグループ活動の継続が難しくなっている。
- 100 才体操を行っているが、参加者が増えない。
- 高齢化

<その他>

- 小生は約 20 年前にゴルフで腰痛になり、毎朝メタボ防止と腰痛対策で Walking を行って世界一周（4万 Km）を目指して後 2～3 年後に達成する 81 歳の男です。お陰で腰痛もメタボも解消です。

Q6)今後、デジタルヘルスケア・センターの事業に期待されることがあれば、お聞かせください。

<データ活用>

- 医療・福祉分野におけるデジタルやデータ活用における発展を期待したい。今後係る方が増えることでより多くの発見などもあると思われるので、できる限り協力したい。
- ビッグデータを扱っての研究は誰でも扱えるものではないので、税金を投入してでも研究的に探究・介入して、地域・国全体に変化をもたらして行ってほしい。
- データで可視化できたものにより、地域にとってメリットが出るような事業になることに期待をしたいです。
- 行政データを活用できるように、分析を代行したり活用について提案していただきたい。
- 兵庫県における健康課題の分析、またデータの活用方法について教えて欲しいです。
- リアルワールドデータによる地域ケアの質向上モデルケースを作っていただきたい

- AI による新たな症状の発見

<体制・支援>

- 兵庫県立大の卒業生はりっぱな看護をされていると思いますが、私のような低空飛行の現場看護師もいます。レベルが違うよと言われてようが、講座を聞いたり学習することで全体の看護レベルを上げることも大切だと思います。未来の看護に期待をもちながら聴講しました。ありがとうございます。
- 免疫力を付けるため腸内環境の改善に活用したいが、その体制を作ってほしい。
- 明石市や播磨町にこだわらず兵庫県全体、我が国のために活動して欲しい。
- HP を通した学習/情報コンテンツの提供
- 休職を繰り返さない復職支援

<連携>

- 様々な取組が進められており、その成果も徐々に現れつつある一方、まだシーズ段階で、今後、更なる取組の必要性も感じました。大学を中心に、自治体、企業、住民等との連携を図り、有効な施策の立案、展開を期待しています。
- デジタルヘルスケア・センターの事業が、学生と地域との交流を生み、教育に活かされる好循環ができてほしいと思います。
- 地域住民が意欲的かつ前向きに健康づくりに取り組もうと思うことのできる取組
- 自治体と連携した現場での具体的な支援
- 事業成果の融合

<活動報告>

- 引き続きリアルタイムでの情報発信を期待しております。遠隔参加が可能であることを希望しています。
- 毎年の成果をお披露目いただきたい。
- 地域から全国へと発信する拠点となっていくことを願っております
- 様々な視点からの研究成果

<Web 活用>

- 今回のように WEB で聴かせていただくと有難いです。また、実践レベルで具体的な事例を時間をかけてお話いただける機会があるとうれしいです。
- zoom でどんどん情報を発信して欲しいです。熊本から参加しましたが、田舎だからこそ ICT を活用したいと考えています。貴センターの活動に期待しています。

<その他>

- 成果・課題も含め、実践された内容をどんどん発信していただきたいです。
- 仕事でコラボできればと思います
- もっと発展して欲しい